



1-4. 沢山の本や雑誌、仕事道具が置かれた自宅のアトリエで 5. 大ヒットとなった「れいぞうこ」(手前)や「かくかくかくくん」など、シンプルで愛らしさが新井さんの特徴でもある 6. 手掛けたグッズの一部。ソケットちゃん(左)は初めて描きおろした絵本のキャラクターで、東京ハンスにも使んだ



新井 洋行 1974年生まれ。絵本作家、玩具デザイナー。代表作に「れいぞうこ」「ひまわり」などの「あけて・あけてえほん」「あてて・あててえほん」シリーズ(徳成社)、「おぼけとかくくん」(くもん出版)「いろいろばあ」(えほんの社)。キャラクター制作にNHK「いないいないばあ」のボタンなどがある

# パパとママにも ワクワクして欲しい

絵本作家として、昨年デビュー10周年を迎えた町田市在住の新井洋行さん。昨年は21冊の絵本を作り、これまで手掛けた絵本は約100冊にも及ぶ。その成功の陰には、2人の娘を育てたイクメンとしての貴重な経験があった。

# 特集3 絵本作家&玩具デザイナー 新井洋行



3歳から町田市に住んでいる新井洋行さん。自然が豊かのどかな相原で玉虫やサンショウウオに触れ、野山を駆けまわって遊んだ幼少時代。祖母にヒヨコの絵をプレゼントして、ものすごく感動された記憶が今でも鮮明に甦る。「自分の絵でみんなに喜んでくれる。」——その原体験が絵本作家としての原点だという。

小さい頃から絵を描くことが好きで、そのワクワク感ほ他の何にも勝っていた。小学校では工作部、中高も美術部、進学した造形大学ではプロダクトデザインを学び、卒業後は子どものおもちゃを作りたいとセバに入社する。

転職が訪れたのは6年目。大好きだったムーミンの作者、トーベ・ヤンソンさんが亡くなったニュースにハッとしたんです。自分が目指していたのはここではない、絵本が作りたいかっぴんだ、と。一手掛けていたゲームを製品化すると、会社を退職。その年、長女の花菜ちゃんが生まれました。独立後は、おもちゃの企画をメーカーに持ち込んだり、セガトイズやベネッセから仕事をもらい、絵本作家を目指した。そして、朝日小学生新聞で連載していたシリーズが単行本になり絵本作家デビューした。

「初めて描きおろした絵本は自分の想いをそのまま形にしたような内容でした。大人がカッコイイと思うような絵本で、グッズ展開までしましたが全然売れなかった。でも、娘に絵本を読んでいるとき、自分が作りたいものと、子どもが喜ぶものが違うことに気づいたんです。それから子どもが喜ぶものを第一に考えるようになりました。そして完成したのが「れいぞうこ」です。「保健師として忙しい妻を助け、保育園の送迎や予防接種にも出向くイクメン生活でママ友の意見を聞くこともできた。」

身近なアイテムのキャラクターにシンプルな展開、そして沢山の聲音。分厚い紙の絵本は大ヒットし、シリーズ化された。「僕は2人の娘、花菜と七海に読み聞かせるのが大好きなんです。次、こう読んだらさうと喜ぶぞって、ワクワクしてくるんです。絵本は親御さんのことも幸せにできるツールだと思っています。」インタラクティブ絵本、と命名した絵本は指で触れたり、話しかけたりすることでストーリーが進んでいく。

昨年は21冊の絵本を制作し、絵本作家となって一番忙しい年になった。夢だった英語圏での販売も実現した。世界中の親子が彼の絵本で幸せな時間を過ごしている。